



スポ推だより

OMIHACHIMAN CITY SPORTS PROMOTION STAFF

編集・発行
近江八幡市スポーツ推進委員
広報部

2022年12月7日発行
Vol. 78

コロナ感染（2019年12月に1例目が発生）に翻弄され3年目を超えようとしています。皆様の2022年はいかがだったでしょうか？自粛から少し動き出す雰囲気が高まりつつあるのは事実です。まだまだ感染対策は続けながらではありますが、スポーツを通して体調管理、ストレス発散の一助になり、多くの方が健康に生き生きに過ごされる事を願います。



日本ボッチャ協会公認キャラクター

出前講座（ボッチャ）

歴史 = ボッチャの元となったボッチーはヨーロッパが発祥とされているが、正確な起源ははっきりしない。ボッチャを統括する国際競技連盟は、2013年に設立された国際ボッチャ競技連盟（Boccia International Sports Federation: BISFed）である。

日本における歴史 = 1997年に日本ボッチャ協会が設立され、2021年の東京パラリンピックでは、個人BC2クラスで杉村英孝選手が日本初のパラリンピック金メダルを獲得、他のクラス・団体が銀メダル3個、銅メダル3個を獲得している。現在日本では、『みんなでボッチャ1万人プロジェクト』を進め、だれもが気軽に参加できるように取り組まれています。近江八幡市でもボッチャ出前講座は人気で、『またしてみたい！』との声を頂いている。11月開催回数（4回）



ボッチャ指導中の田附委員

2022水郷の里マラソン 11月13日



3世代出場者からの選手宣誓

3年ぶりの開催、コロナ対策もあり参加者を県内在住者に限定した事から2019年大会（1,728名）→2022年大会（805名）となるが、3世代での出場、各学校長からの声援、コスプレ・スパイダーマン衣装で参加された方など、多くの方が真剣に自身と向き合い走られている姿に感動しました。

また運営面でも、記録証のWEB化、閉会式は行わず各部門終了ごとに随時表彰されたことで、スムーズな運営になったと感じました。

出店が無い事で、物足りなさを感じた方がおられるかも知れませんが・・・

部門毎、スタート間のアナウンスでは今回で46回目の開催

2015年大会水郷の里マラソン優勝者、現在でも駒沢大学で活躍され、日本レベルの選手も輩出していると自慢話も織り交ぜながらアナウンスされていました。

水郷の里マラソンつづき



スタート

各学校長からの声援

スパイダーマン衣装で完走

11月17日、18日全国スポーツ推進委員研究協議会滋賀大会

全国のスポーツ推進委員が一堂に会し、スポーツ推進委員の目指す方向や地域スポーツの今日的な課題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、生涯スポーツの振興に資する。を趣旨に開催されました。

講演では、講師：宇田秀生氏 『今しかできないこと』 について講演頂き、岩井委員から以下の感想を頂いています。

* 宇田秀生氏：東京2020パラリンピック トライアスロン競技 PTS4 銀メダリスト



岩井委員感想

27歳で仕事で右腕を無くされて、それまでは、健常者、その後は障害者になられたわけですが、とてもポジティブでイケメンな方でした。

物事の捉え方に対して、大きくとらえず小さくとらえると言う事でその方が力まずに力を発揮できると、自分を成長させる為にどういう所に身をおくかを考えるとおっしゃっていたのが印象的でした！

トライアスロンがそうだったのかなと思いました！

